

令和6年度島根県教育職員（寄宿舍指導員）採用候補者選考試験
場面指導試験の評価の主な着眼点

- 生徒の気持ちを理解しようとしていたか。
- 生徒の実態や生活年齢を意識して接していたか。
- 生徒の様子から、関わりや声がけに工夫が見られたか。
- 受容と指導のバランスは適切であったか。
- 指導の意図が明確に伝わったか。
- 信頼関係を築いていくような関わり方であったか。

設定場面 知的障がい特別支援学校 高等部2年

生徒Aに対して個別に指導

多くの寄宿舎生が共に過ごすプレイルームで、生徒Aは、他の寄宿舎生のことを考えずに、テレビを見ながら大きな声で笑ったり、好き勝手に周囲に話しかけたりしています。そんな中、生徒Bは生徒Cと話をしたそうにしているのに、あきらかに話ができずに困っています。

この場面を目にした時を想定して、生徒Aの担任として指導をしてください。

[Aの想定]

- ・人と関わるのが好きで、自由時間は、友達と話したり遊んだりして過ごしている。
- ・日常的な会話はできるが、長文で話したり、わかりやすく話したりすることは苦手である。
- ・自分の言動を客観的に捉えたり、ルールの根拠を考えたりすることが苦手である。
- ・指導員からの指導は受け入れにくいときがあり、乱暴な発言になることがある。

設定場面 知的障がい特別支援学校 高等部 1 年

生徒Aに対して個別に指導

高等部 3 年生の生徒Bから、「高等部 1 年生の生徒Aが、朝礼に遅刻することが多いです。集合時間の前に生徒Aに声をかけても、スマートフォンを使用していて、遅刻することがあります。先生から生徒Aに対して集合時間を守るように伝えてほしいです。」と相談がありました。生徒Aの担任として指導をしてください。

[Aの想定]

- ・人と関わることは好きだが、自分本位に物事を捉えてしまうことがある。自分がやりたいことには没頭してしまうところがある。
- ・興味がないことや、納得がいかないこと、必要性が感じられないことにはあまり意欲的に取り組むことができない。
- ・寄宿舎での生活について、ルールややらないといけないことが多すぎると感じている。
- ・気持ちを汲み取ることは苦手だが、時間をかけて具体的に説明すると、相手の気持ちを考えようとする。